

# 第44回「議員と語りかい」報告書

2班 (No. 1)

開催日	令和 6年 2月 7日 19時 00分 ~ 20時 30分		
開催場所	溝辺総合支所 第1・2会議室		
団体名	個人参加（溝辺地区）	参加人員	10人 (男 8人 : 女 2人)
出席議員	今吉 直樹、野村 和人、前島 広紀、竹下 智行、塩井川 公子、久保 史睦、川窪 幸治、宮内 博		
役割分担	班 長（今吉 直樹）副班長（野村 和人）記録係（前島 広紀）		
テーマ及び具体的な内容	10年後の地域づくり、幸福度の高いまちへ		

意見交換での主な話題等	<p>A班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人主義になってきており、人のつながりが弱くなって、地域コミュニティの弱体化、自治会の崩壊を感じる。コロナ禍や地震災害など一日で世の中が変わることがある今日、何をすればよいのかわからない中で、話しあってなんでも解決していくことが大事である。</li> <li>・溝辺はみぞべらしく田舎であることを誇りに思いたい。溝辺は農業のまちであるが、お茶や林業などは最盛期を過ぎている。若者たちが参入したいと思う農業にしていくためには、20年後30年後に最盛期となる新しい特産品をつくらなければならない。登り坂の農業であれば新規参入者もあるのではないか。農業しかないというまちを若い人も誇りに思えるようになっていけたらいい。</li> <li>・トラクターに乗っている人の姿を見て歩いている子どもたちが、「わぁカッコイイ」と言ってもらえるような農業になるべきだと思って日々働いている。</li> </ul>
-------------	---

意見交換での主な話題等	<p>B班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家対策として、家屋整備の補助はできないのか。10年後は過疎化がひどくなり、空き家が増えるだろう。ネットの紹介などで外部からの入居者を呼び込めないのか。</li> </ul> <p>◇空き家バンクのことを説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の森近くに、森林地帯を好む世帯の移住があった。このようなことを増やしていけたらと思う。</li> <li>・市営住宅の十文字団地（建築後40年位くらい）は32部屋中、入居は14部屋位である。なぜ満室にならないのか。家族の子どもが働くようになると、収入が増えて家賃が上がり、7～8万円くらいになる。対策を考えてほしい。</li> <li>・8月と12月に美化作業を行うが、落葉が多い。草払いを嫌がる住民が多い。半分は自分たちですが、梅雨明け頃に行政でできないか。シルバー人材センターの方がするにしても高齢化が進んでいるので、プロア一等の購入補助はできないか。また、省力化の検討はできないか。</li> </ul> <p>◇公民館の備品購入補助があることを案内。道路維持班の機械化を考えていきたい。</p> <p>C班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今島スタンドから照明寺に抜ける道路（市道・馬立北原線）に途中から歩道がない。多くの子どもが通学するので危ない。7時から9時、15時から18時の間トラックを走らせないようにできないか。</li> </ul> <p>◇一般質問において、歩道も含めて令和8年で完成という答弁である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50年前に田の圃場整備をしたが、配水が悪くぬかるんでいるので何度も改善を要望するが通らない。放置するとイノシシの被害などで荒らしてしまう。整備をしてほしい。</li> <li>・県民の森付近の4km口ほど市道にツツジを植えている。アダプト制度で整備しているが、高齢化で苦難である。全国から「草刈りツーリズム」でボランティアを募集すればどうか。</li> </ul> <p>◇地元は交流のおもてなしをするなどの条件があるので、協議が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陵南小は子どもが増え活気がある。今後も伸ばすためには、教育インフラのハード面の整備をして、魅力的な環境整備をしてほしい。また、給食費を無償化し、子育て世代をサポートしてほしい。</li> <li>・国は空港の充実として大きな貨物便の導入を検討しているとのことで空港の充実を考えていくべきである。</li> </ul>
-------------	--

## D班

- ・10年先自治会活動を維持できるか。子どもが少なくなる。
- ・自分の子どもたちは国分・隼人に住んでいるが、溝辺なら半額くらいで家がつくれるのではないか。
- ・みぞべは若者が溶け込んでいけない環境があるのではないか。買物ができるお店が少ないことが人口減少になっているのでは。
- ・ふるさと納税の返礼品にお茶や薩摩切子などがあるが、中山間地を活用してブルーベリーなどを売り出していけないか。
- ・行政の職員が責任者となり、不耕作農地にフルーツを栽培し販売してはどうか。
- ・空港ホテルが買収されるが、地域の人たちと話しをしながら地域に溶け込んで地域が潤う建物にしてほしい。みぞべの良さは、空港があって、バレルバレーがあって、土地柄のやさしさがあふれている町である。

## 意見交換での主な話題等

## ■全体で

- ◇3班の圃場整備の依頼・・・現場を確認し、どういうことができるか市に確認してみる。
- ◇給食の無償化、空き家の増加の対策、市営住宅の課題などについて議会の中でも議論があり、それぞれの議員が自身の情報や考えで提案しているところであるので、注目してほしい。
- ◇空港のトンネルについては、国や県の管理道路ならば、状況を確認し対応したい。
  - ・宮川内の耕地整理において、高い土手ができている。草刈りなどの管理が大変であると思われる。
- ◇空港のトンネルの件であるが、すでに地元説明会があって、補強工事をするということで進んでいるとのことである。
  - ・そのような工事をしなければならぬほど鹿児島空港の物流が増えているということではないか。それであれば、物流の拠点になる可能性があるので、それを一つのアイデアとして考え、今後利かす取組をしたらどうか。

## ◇まとめ

- ・幸福度について、人間関係が充実している地域である。一方そういうことが向上するような状況ではないのでは。つながる機会がなくなっていることが幸福度の高い人生のための機能が薄れてきているように感じた。そこに対する行政の予算執行や目に見えない成果があって難しい予算措置になりがちである。人と人とのつながりの希薄さが負の連鎖を起こしていることは明らかである。議員活動のなかで議会全体として取り組んでいきたい。
- ・現状の課題が多くて、10年後どのような街にしたいかということがなかなか見えないのかもしれないが、目標があってそこに向かうことが課題の解決になる。これからの霧島市の市政発展のために考えて動いていきたい。